

## 飯島賢二の『恐縮ですが...一言コラム』

### 第 404 回 「なら・しか人間」と「空気」

2011.2.13

「大丈夫ですよ、あなたの代わりはいくらでもいますから、どうぞ、お休みください。」  
そう言われて「ラッキー」と思うなら、あなたはその会社を辞めた方が良いでしょう。  
なぜなら、会社はあなたを必要としていない、つまり、いつでもリストラ要員と同意語だからだ。

今自分が会社からいなくなったら、この会社は困るだろうか？  
「あなたならできる」という「**なら人間**」から  
「あなたしかできない」という「**しか人間**」に、今のあなたが、そんな存在になっているだろうか。

科学的な経営技法から言えば、この「なら・しか人間」は、実に困った存在である。  
近代経営学の原点は効率化から始まり、今は多くの要素で標準化を目指そうとしている。  
オートメーションも、マニュアルも、ISOもIT化も、皆、この思想の中にある。  
そんな潮流の大きな障害要因が、この「なら・しか人間」であることは、言うまでもない。

「彼がいないとできない」...いわば超絶技巧的職人芸は、いくらITが進化しようと、そう簡単に代わられるのではない。だから...  
経営学上、非常に非効率的「名人・しか人間」は、人間的に最も魅力がある「ひと」と映る。  
気の遠くなるような修行を得て、辛抱と忍耐と、絶え間ない努力の積み重ねが技芸を開花させる。  
自身との戦いに心身ともに疲れ果て、血の滲む苦難をのり超えてこそ成せる、至難の業かもしれない。町工場の研磨術、旅館の名物仲居等々、昔ほどの職場にも、必ずこのタイプの逸材がいた。  
今は時代が違う、価値観が違いテクノロジーも違っている。今時の若いスタッフに...それを目指して精進しろ！...とは、少し酷な話であり、あるいは意味がないのかもしれない。

でも、こんな質問に答えるとすれば...いかがなものか。

...あなたは、何のために会社に存在しているのですか？  
...あなたの、会社からみた魅力は何ですか？ 価値は何ですか？  
...あなたは、どんな時に必要とされていますか？  
...あなたは、どんな人たちに、どのような貢献ができていますか？  
...頑張ることによって喜んでくれるのは誰ですか？  
そして  
...ありがとう、あなたのおかげで...何回言われましたか？

「いても、いなくてもいい存在」、あなたがそんな存在になっているとしたら、  
あなた自身、きっと仕事をしていても面白くないはずだ。  
自分が今なぜここにいる、その仕事をしているのかが理解できていないからに他ならない。  
仕事の本質も分かっていないし、ただ、言われたことを事務的、作業的にこなしている。  
それが仕事だと思っている。  
何を指してこの仕事をやっているのか、やり遂げた成果は何か、  
恐らく全く分かっていない人、  
そうであれば、会社は、あなたを必要としないのは当然である。

即、会社の名人になれ！とは言わないが、せめて「なら・しか人間」を目指して、自分の存在感を確立すべきであろう。「空気のような人ね」...とは、決して褒め言葉ではない。